

# 計画的なLEDリニューアル お取り組み事例



岡山県立大学 附属図書館



学部共通棟

## 6年間の計画的なリニューアルで 映光色LEDを初年度に約1,000台\*ご採用。

### 岡山県立大学 様 [岡山県総社市]

公立大学法人岡山県立大学 事務局  
総務課総務班(施設管理)  
建築担当 倉本 幸治 様

岡山県吉備地方の緑豊かな田園地帯に位置する岡山県立大学様。  
2024年度より全学で約9,000台におよぶ蛍光灯器具のLED化を推進。  
年間約1,500台の照明器具を6年間で全面更新する計画で、  
初年度にパナソニックの映光色LED照明を約1,000台\*ご採用いただきました。

### 蛍光灯の生産終了を見据え、 毎年1,500台ずつ6年計画でLED化

岡山県立大学様は1993年に開学。保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部を擁し、約1,600名の学生が学んでいます。学内には約9,000台の照明器具があり、その老朽化対策と2027年の蛍光灯生産終了に向けて、2024年から照明器具の計画的なリニューアルに着手されました。

「LED化を検討し始めたきっかけは、2~3年前に電気料金が大きく値上がりし、エネルギーコストの節約が求められるようになったからです」と、同学で施設管理を担当される倉本様は説明されます。「当時、本学にあった照明器具は大部分が蛍光灯でしたが、これをLED化すれば電力コストがかなり下がることは認識していました。加えて2027年には蛍光灯が生産終了することも把握していましたので、そこから逆算すると、年間1,500台ずつ更新していかないと間に合いません。そこで大規模な工事計画を立案し、パナソニックに相談したところ、『映光色』の一体型LEDベースライト iD

シリーズを紹介されました」。

映光色はRa93という高い演色性を持ち、明るさと色再現性のバランスの良さが特長です。一般タイプよりも色をより自然光に近い状態に見せるため、色再現の忠実性が求められる場所や、肌色をよく見せたい場所等に適しています。同学にはデザイン学部があり、「色の見え方に極力こだわりたい」という思いもありでした。

「『映光色』のデモ機で見た赤色が一般タイプと見比べて鮮やかに見えたため、デザインを学ぶ学生にぴったりだと思いました。文字もくっきり見やすく、学校での納入事例を読ませてもらったところ『白板がよく見える』という声がありましたので、採用を決めました」と倉本様はおっしゃいます。

まずはじめに、点灯時間が最も長く、省エネ化をはかれる図書館にご採用。次に、講義室が集中する学部共通棟に採用されました。「デザイン学部では高演色タイプの蛍光灯が使用されていたので、先生にあらかじめ『映光色』と高演色タイプのLEDをご覧いただき、既存蛍光灯の高演色タイプと遜色ないと判断いた

### 納入された主な照明器具



映光色について  
詳しくはこちら

#### 附属図書館 一体型LEDベースライト iDシリーズ 映光色



#### 学部共通棟 一体型LEDベースライト iDシリーズ 映光色



#### 附属図書館 LEDダウンライト 高Wタイプ



#### 学部共通棟 SmartArchi 上下配光ブラケット



だいた上で、『映光色』を採用する予定です」と倉本様。

パナソニック製を選んだのは「既設器具がパナソニック製であったこと、器具数が多いため複数メーカーから採用すると全体の統一性がよくないと考えたのと将来修繕管理の手間が少なくすむと判断したため」。更新コストは県からの補助金で賄われていますが、申請資料作成に際しては、「パナソニックの協力が大きかった」とおっしゃっていただきました。

### 明るさアップ、ランプ交換の省力化、 電気料金の低減に貢献

「映光色」の導入後、学内の各所から「明るくなった」という声が寄せられています。同学が定期的に行う照度測定調査でも、以前は基準値をギリギリでクリアしていた講義室の照度が、リニューアル後はかなり向上したことがわかりました。図書館では「以前より明るくなった」「図書館が新しくなったみたい」などの声が学生から届いています。

また、以前は蛍光灯ランプが頻りに切れ、そのたび

に交換依頼の連絡をするという業務も図書館では司書の方々の負担になっていました。LED化によりその負担がなくなったことで本来の仕事に集中できると司書の方々にも喜ばれています。

電気料金を比較されたところ、まだLED化していない建屋は前年度より軒並み上昇していましたが、図書館・学部共通棟(北)・本部棟は下がっていたため、「LED化の効果」とお考えです。今後も、点灯時間が長い場所から順次LED化を進めていく予定です。

### 大学ならではの施工時期に配慮 2027年問題には長期的な対応を

毎年1,500台もの照明器具を更新していくには、工事のスケジュールにも配慮が必要です。昨今、蛍光灯生産終了の2027年問題を控えて一部に買いだめ行動が見られるとの指摘もあります。同学のように6年という年月をかけて計画的にリニューアルをされる事例は、長期的な視点でもとても理にかなっています。「他大学や公共施設などの参考にさせていただければ」とお話しくださいました。